

【2024 年度 公益財団法人 鎌倉青年会議所 理事長報告】

第 60 代 理事長 森山桂多

私たちはこのまちに対してなにが出来るのか。価値観が多様化する中で、今のままでいいのか。理事長職をお預かりするにあたり、何度も何度も考えました。考えた後に見えた一つの答えは、内省して答えを導き出すのではなく、まちから求められているもの一つひとつに向き合っていくその先に、答えが自然と見えてくるのではないかという事です。鎌倉青年会議所として 60 周年という節目の年を迎えた本年だからこそ、テーマ「持続可能な変革」、スローガン「未来を切り開く、共に挑戦しよう」と力強く掲げ、様々な事に挑戦し、この鎌倉青年会議所の新たな一步に繋がる運動を推し進めて参りました。

まず、永田委員長率いるまちづくり委員会では2月に鎌倉の新たな魅力に触れてもらう為に、冬の海岸を舞台に出会いの場を作る事業を行い、5 月には第 52 回慈善茶会を担当して頂きました。各部会長を中心に全メンバーが一丸となってご来場されたお客様をおもてなしする事で、まちづくり事業であると共に鎌倉青年会議所の中心的事業でもある慈善茶会を開催致しました。そして、10 月には市内の多くの子供達と共に、ハロウィーンの仮装で市内を明るく照らすとともに、市内各所でごみ拾いを行い、鎌倉市の課題でもあるごみ問題について学ぶ事業を行いました。どの例会でも多くの方々の御協力を頂く事で事業を作る事が出来ました。これにより鎌倉の新しい魅力、茶道を通じたまちとの繋がり、そして将来の鎌倉を担う子供達と鎌倉の課題を学び、鎌倉の未来の可能性を感じる事が出来ました。

次に、武藤委員長率いる拡大広報交流委員会では4月にファンづくりを目的とした講師例会を行い、8 月には広報について学ぶ交流事業を通して、多くの方との出会いの機会を構築しました。そして、11 月にはこれまでとは違う新しい視点から自身を見つめなおし、自信の事業にも生かせる多くの学びの時間を構築しました。これらの事業により鎌倉青年会議所だけでなく、自信の持つ魅力、身近な人を見つめなおし、そしてその魅力を発信する、そこからできる新たな関係を見つける事が出来ました。更には、切れ目のない広報を行い当会議所の事業を多方面に発信してまいりました。次に、郷原委員長率いる 60 周年記念委員会では3月には鎌倉青年会議所の 60 周年を記念する記念式典を開催し多くの関係諸団体、多くの先輩諸氏の皆様にお越し頂き、これまでの感謝、そして未来に向けた決意を公表させて頂きました。6 月には金澤翔子様にお越しいただき、同じ鎌倉で活動する多くの方々と共に課題の共有や助け合いの関係構築のきっかけ作りを行いました。そして9月には大船夜市実行委員会の皆様と共に、鎌倉の玄関口である大船を最大限に盛り上げる為に、大船夜市を開催しました。こうした事業を通して、これまで鎌倉青年会議所が関わってきた多くの方々に感謝を伝えるだけでなく、この先続く、鎌倉青年会議所の力強さを知ってもらう機会に繋がったのではないかと考えます。次に、青木委員長率いる総務委員会では1月の賀詞交歓会で関係諸団体との交流、7月の次年度理事長を祝う会で次年度体制との交流、12月の卒業生を送る会では卒業生との交流を行い、本当に多くの方々と大切な時間を過ごすことが出来ました。鎌倉青年会議所の歴史と未来を改めて感じる事が出来ました。次年度段階より各会議での設営並びに運営を厳粛に行う事で各事業の議論を尽くしてきました。これにより会員には多くの学びの機会となり、妥協なき議案作成をする事が出来ました。こうした変わらぬ青年会議所の文化こそが、このまちを担う青年を成長させることに繋がるのだと確信しております。次に、長野委員長率いるブロック大会実行委員会では15年ぶりに鎌倉での開催となるブロック大会の主管ロムとして、5 益を考え、多くの準備をもって当日を迎える事ができました。PR として各地青年会議所をまわり、様々な広報を行い、当日は多くの方と共に事業を行うことができました。鎌倉青年会議所だけでは開催する事の出来なかった規模で事業を行うことで、多くの経験を積むことが出来ました。

本年度は会員全員が一丸となって活動をした年と考えております。いかに優れた事業が理事会で審議されようとも、いかに優れた委員長がいようとも議案から本当の事業へと形作るには委員会メンバーにどれだけ協力してもらえるかにかかっております。これを成すには日頃の委員会運営や関係性づくりが何よりも重要だと考えておりました。一人の力には限界があり、会員同士が仲間を信じ小さな力を結集する事で大きな力へと変換され 2024 年度の大きなうねりを創り出しました。隣人との関係性が作りにくい世の中だからこそ青年会議所が地域の為に、自己成長の為に感謝の気持ちを持って精一杯の活動をする時だと考えます。本年の運動がこのまちに間違いなく新たな影響を与えたと確信しております。

最後になりますが本年、お世話になりましたメンバーの皆様・OB の皆様、また私と共に会の運営に携わってくださった、松永副理事長、根本副理事長、今村副理事長、菅議長、そして、ずっと横で支えて頂いた和久専務に最大限の感謝を申し上げ 2024 年度の理事長報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

【2024 年度副理事長報告】

まちづくり委員会担当 根本紗央里

私が鎌倉青年会議所の副理事長として担当したのは、まちづくり委員会での担当副理事長でした。まず、まちづくり委員会の委員長と協力して慈善茶会をはじめ、まちの課題をみつめ開催した街コンの例会や子供たちを巻き込んだハロウィンをしながらゴミの問題を考える例会の運動・運営を委員長へ指揮いたしました。これにより、メンバーのスキル向上や組織内での連帯感を醸成し、鎌倉青年会議所のメンバー全体にプラスの影響をもたらしました。また、委員会事業を通じて、まちづくりに繋げ地域社会における鎌倉青年会議所の存在の認知度を上げることができ、地元企業や団体との連携を促進しました。まちづくり委員会は、まちの地域課題を見直し、その課題にむけて取り組む事業を行い鎌倉青年会議所の社会貢献度を高める重要な役割を果たしました。そして、委員会活動において多くの対外の渉外運動を請け負いメンバーを巻き込みました。慈善茶会においてはメンバーと協力し、アイデアの共有や新たなイノベーションを生み出しました。このプロセスを通じて、協調性やプロジェクトマネジメントのスキルを向上させると同時に、委員会メンバーとの良好な関係を築き上げました。まちづくり委員会の担当副理事長としての経験は、地域社会との連携を通じて組織の発展に寄与できることを実感しました。これらの学びと経験は、今後の青年会議所活動に活かしてまいります。

60 周年記念委員会担当 松永充広

2024 年度、60 周年記念委員会の担当副理事長を務めさせて頂きました。郷原委員長率いる 60 周年記念委員会は、3 月例会、6 月例会、12 月例会を担当させて頂きました。鎌倉青年会議所の 60 周年に相応しい例会構築となるよう郷原委員長を筆頭に委員会が一つになり一年間活動させて頂きました。また、例会のほかに 60 周年記念誌の作成、これからも長く愛用される 60 周年記念品であるシャツの作成を行いました。大きな節目の年に携わる機会を頂きましたことに感謝申し上げます。本年度はこれまで先輩諸氏が紡がれた大きな財産とこれからの鎌倉青年会議所も発展を願い活動してまいりました。当会議所の歴史と伝統を改めて再認識する機会は委員会メンバーのみならず全会員に伝え想いを伝えることが出来たと考えます。最後になりますが、1 年通して委員会を引っ張ってきた郷原委員長、それを支えてきた中村副委員長をはじめとする委員会メンバー、共に 1 年を活動してきた正副メンバー、そしてこの機会を頂きました森山理事長をはじめと致します鎌倉青年会議所の全てのメンバーに感謝を申し上げ、副理事長報告とさせて頂きたく思います。1 年間ありがとうございました。

拡大広報交流委員会担当 今村広太郎

私は、2024 年度拡大広報交流委員会の担当副理事長を拝命し、当会議所 60 周年記念事業およびブロック大会の鎌倉開催という極めて重要な節目を迎える年に携わる機会を賜りました。しかしながら、私自身の至らなさにより十分なコミットメントを果たせず、多くの課題を残す結果となりました。この責務の重さを痛感し、深く省みる次第です。そのような中で、森山理事長をはじめとする理事会の皆様、そして和久専務をはじめとする委員会メンバーの皆様には、多大なるご支援とご理解を賜り、私が果たすべき責任を補完し、委員会を力強く牽引していただいたことに心から感謝申し上げます。本年度の経験を通じて得た教訓を真摯に受け止め、今後の糧とすることで、自らの成長と当会議所の発展に資するべく精進してまいります。

一年間にわたりご尽力いただきましたすべての皆様に、改めて深甚なる感謝を申し上げます。

【2024年度専務理事報告】

専務理事 和久裕治

青木委員長、千田副委員長をはじめとする総務会員育成委員会の皆様、1年と数か月の間、本当にありがとうございました。担当する例会の他、会議設営、資料収集など大変多くのご支援あったからこそ、専務の仕事ができたと思います。

そして何より、森山理事長、私を専務理事に指名していただき、ありがとうございました。至らない部分もあったと思います、本年は60周年やブロック大会と数多くの事業に携わらせていただきました。ブロックの事業に関してもわからない事が非常に多くメンバーはもちろんの事たくさんの方にご迷惑をお掛けしたと思います。しかし、本年の経験は私の人生の中でも大変貴重な経験となったことを確信しております。あらためて感謝申し上げます。

2024 年度
公益社団法人鎌倉青年会議所
委員会活動報告

まちづくり委員会

60 周年記念委員会

拡大広報交流委員会

総務会員育成委員会

ブロック大会実行委員会

JC 理念共感推進会議

【まちづくり委員会】

- 担当副理事長名：根本紗央里
- 委員長名：永田洋子
- 副委員長名：神代竜太郎
- 委員名：岡崎修也、柿崎芳樹、齋藤壮一郎、田中輝一、中森健之介、岩崎由季
- 作成者名：永田洋子

1) 事業報告

(I) 人的側面における課題の解決を推進する事業の実施

- 内容：まちの内外を問わず魅力のある男女の交流を図る事業
- 時期：2024年2月
- 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、市民
- 結果：会員20名・市民40名

(II) 双方の側面におけるまちの課題を共有しながら交流を行う場を創出する事業の実施

- 内容：第56回慈善茶会
- 時期：2024年5月
- 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、先輩諸氏、来訪J.C、市民、学生、協働団体関係者茶道関係者
- 結果：会員33名・市民467名

(III) 関係諸団体との関係をより強固なモノとする事業の実施

- 内容：第56回慈善茶会後の懇親会
- 時期：2024年5月
- 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、先輩諸氏、学生、協働団体関係者、茶道関係者
- 結果：会員27名・先輩諸氏17名・関係諸団体16名

(IV) 環境的側面における課題の解決を推進する事業の実施

- 内容：まちの魅力ある環境を再認識しつつ課題に向き合う事業
- 時期：2024年10月
- 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、市民
- 結果：会員21名・市民94名

2) 委員会報告

本年度のまちづくり委員会は、まちの双方の魅力に内在する課題について積極的に挑み、会員自身も含めて参加者やまちの人々と共に共有、把握し、解決に向けたきっかけづくりができる場を設けることを目的として活動しました。

まず2月例会において、まちの内外を問わず魅力のある人々の交流を図る事業を開催しました。具体的には、鎌倉の海岸沿いにある店舗を貸切、同年代の男女の交流を図る場を設けました。目標数の若年層の方に参加していただくことができ、多くの方に交流を図っていただけました。本例会を通じて、鎌倉のまちに住む人々の魅力、当会の魅力を感じていただき、定着化へつながるきっかけを提供できたと考えます。

5月例会においては、慈善茶会を茶道裏千家千宗室御家元様をはじめとする御宗家の皆様、会場を御貸し頂くとともに多大なるご協力を頂いております鎌倉大仏殿高徳院佐藤孝雄ご住職様、大仏関係者の皆様、淡交会の皆様、地域の協働団体の皆様、学生の皆様、そして会場にお越し下さいます皆様の御蔭様をもちまして、開催することができました。本年は茶券価格の変更を行いました、変わらず多くの方にお越しいただきました。諸先輩方を含めて会員一同稽古に励んだ本席はもちろんのこと、晴天の中で執り行うことが叶った献茶式や新たな器を用いて盛り付けを工夫し鎌倉の魅力を詰め込んだ点心のどれも非常に好評でした。加えて、茶会後の懇親会では多くの関係者の方にお集まりいただき、これまでのつながりにご協力に感謝を伝えると共に関係性をより強固なものとすることができました。アルペなんみんセンターへ寄付金もお届けいたしました。

最後に、10月例会において、まちの魅力ある環境を保持する事業を開催しました。具体的には、大船駅周辺において仮装をしながらゴミ拾いを行ったうえで、収集したごみを用いて勉強会や体験会を行いました。子供と大人が共同してゴミ拾いを行いその後の勉強会や体験会へつなげたことで、鎌倉のゴミ問題やリサイクル方法等について、具体的な実感を持ってもらうことができ、新たな意識付けができたと考えます。

以上の例会を通して、当委員会では、まちの環境的側面と人的側面の双方の魅力に内在する課題解決の第一歩となる場を提供することで、会員及び鎌倉に関わる一人一人が主体的にまちに関わっていく事に結びました。初めての理事及び委員長でしたが、担当副理事をはじめとする正副の皆様、副委員長、委員会メンバーのみならず一人一人の会員の皆様のサポートのおかげで無事に開催することができました。関わって下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

【60周年記念委員会】

- 担当副理事長名：松永充広
- 委員長名：郷原啓介
- 副委員長名：中村太一
- 委員名：小倉諒太、高久和則、メタバラッツ、内田千明
- 作成者名：郷原啓介

1. 委員会事業計画

(Ⅰ) 敬意と感謝を伝え未来への発展を目指す事業の開催

- a. 内容：メモリアルデー並びに 60 周年記念式典の開催
- b. 時期：2024 年 3 月 13 日
- c. 対象：会員 30 名程ゲスト 6 名、先輩諸氏 47 名、関係諸団体 60 名、来訪 JC70 名
- d. 結果の公表：ホームページ並びに SNS、総会資料に掲載

(Ⅱ) 変化をもたらす新たな一步を踏み出す事業の開催

- a. 内容：新たな一步を踏み出す事業
- b. 時期：2024 年 6 月 16 日
- c. 対象：会員を対象に 30 名程度及び入会希望者、市民、関係諸団体
- d. 結果の公表：ホームページ並びに SNS、総会資料に掲載

(Ⅲ) 60 周年の歩を活かしまちを巻き込んだ事業の開催

- a. 内容：60 周年記念事業の開催
- b. 時期：2024 年 9 月
- c. 対象：会員を対象に 15 名程度及び入会希望者、市民、関係諸団体
- d. 結果の公表：ホームページ並びに SNS、総会資料に掲載

(Ⅳ) 60 周年記念誌の作成

- a. 内容：60 周年記念誌の作成
- b. 時期：2024 年 1 月～12 月
- c. 対象：会員を対象に 30 名程度並びに先輩諸氏、関係諸団体
- d. 結果の公表：ホームページ並びに SNS、総会資料に掲載

(Ⅴ) 60 周年記念品の作成

- a. 内容：60 周年記念品の作成
- b. 時期：2024 年 2 月
- c. 対象：会員を対象に 30 名程度並びに新入会員、先輩諸氏、関係諸団体
- d. 結果の公表：ホームページ並びに SNS、総会資料に掲載

2. 委員会報告

本年度まちづくり委員会では、1 年を通じて市民一人ひとりのどんな立場の人でもその人らしくあらゆる環境や状況でもお互いに尊重し合い自分らしくいられる様なまちづくりを目指して参りました。

まず初めに 2 月例会では一人ひとりどのような状況で何を求めているのかという本質を見極める為にそれぞれの抱えている障壁とは何かを追求しました。鎌倉の代表的な仏閣として有名な建長寺にて、目の見えない方だけでなく、全ての方が視覚以外の感覚、で観光を楽しむことができる建長寺ブロンズ像の模型を用いて講師の方に視覚障害者の娘さんの実体験などをお話いただいたり、市民の皆様と障壁とは障害ではなく個性であり、気を遣われたり、バリアフリーのようにその人専用にしてしまうとみんなが使うことができなくなってしまうこと、工夫をすることでみんなと一緒に楽しむことができるユニバーサルデザインになることを共に学ぶことができました。昨年制限がある中での復活を遂げた慈善茶会を茶道裏千家千宗室御家元様をはじめとする御宗家の皆様、会場を御貸し頂くとともに多大なるご協力を頂いております鎌倉大仏殿高徳院佐藤孝雄ご住職様、大仏関係者の皆様、淡交会の皆様、地域の協働団体の皆様、学生の

皆様、そして会場にお越し下さいます皆様の御蔭様をもちまして、開催することができ、点心で鎌倉の魅力を詰め込んだ温かいお料理の提供やどんな方でもお茶を楽しんでいただけるようなご準備、お献茶式での本年できうる最大限のおもてなしをすることができました。そして茶会後の懇親会では多くの関係者の方にお集まりいただき、これまでのつながりとご協力に感謝を伝えると共に関係性をより深めることができました。更には寄付先であるアルペ難民センターの方々にもお越しいただき現状と感謝の気持ちを伝えていただきました。2023 年度まちづくり委員会としての集大成である障壁を超えた先の目指すべき姿として、どんな人でも共に楽しむことができ一人ひとりの顔がわかるような地域の輪ができるように市民が継続的な交流ができる環境づくりをするべく、鎌倉広町緑地の自然環境の中で様々な立場や環境、大人でも子供でも同じように笑顔で楽しむことができる場を作りました。この緑地ではボランティアが不足していること、認知があまりされていないが市民が家庭菜園や農業体験などを求めているという需要とのマッチングができ市民の新たな交流の場となれるようなきっかけとなりました。

結びとなりますが、年間を通しホップ、ステップ、ジャンプと色とりどりの事業の中で一貫して飛躍していくイメージで 1 年間走り続けて参りました。担当例会以外にも多くの事業を与えていただき、対外団体との関わりを通じ、自分達の鎌倉での立ち位置を理解し、更なる活動への起爆剤とし前進をしてきました。立ち止まらずにいられたのも支えていただいた委員会を始めとするメンバーとまちづくり委員会を任せていただいた正副理事構成メンバーの皆様、卒業されてもご支援をしていただける先輩諸氏、関係諸団体の皆様など多くの方々のお陰であり、一人ひとり感謝申し上げます。

【拡大広報交流委員会】

- 担当副理事長名：今村広太郎
- 委員長名：武藤桂悟
- 副委員長名：田中良太郎
- 委員名：藤井錬、野村亮介、山口隼世、正木涼
- 作成者名：武藤桂悟

1) 事業報告

(Ⅰ) 会員拡大活動の実

- a. 内容：会員拡大を目的とした渉外活動
- b. 時期：2024年1月～12月
- c. 対象：鎌倉市・共同団体・市民を対象に30名程度及び入会希望者
- d. 結果：ホームページ、SNS、総会資料に掲載

(Ⅱ) 組織広報に関する事業

- a. 内容：鎌倉青年会議所の運動発信、ホームページ、SNSの管理、運営
- b. 時期：2024年1月～12月
- c. 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、関係諸団体、市民
- d. 結果：ホームページ並びに総会資料に掲載

(Ⅲ) 会員拡大に向けたスキル向上の研修

- a. 内容：会員拡大に向けた意識、スキル向上研修
- b. 時期：2024年4月
- c. 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、市民
- d. 結果：ホームページ、SNS、総会資料に掲載

(Ⅳ) 会員拡大に向けた広報交流事業の開催

- a. 内容：会員拡大に向けた広報を兼ねた交流会事業
- b. 時期：2024年8月
- c. 対象：会員を対象に30名程度並びに入会希望者及び拡大対象者
- d. 結果：ホームページ、SNS、総会資料に掲載

(Ⅴ) 異業種大交流会の開催

- a. 内容：まちに点在した魅力ある人をつなぐ異業種交流会
- b. 時期：2024年11月
- c. 対象：会員を対象に30名程度並びに入会希望者及び拡大対象者と鎌倉市に位置する企業団体
- d. 結果：ホームページ、SNS、総会資料に掲載

2) 委員会報告

2024年度、鎌倉青年会議所の拡大広報交流委員会は、「持続可能な変革」をテーマに掲げ、地域社会とのつながりを深めるための会員拡大・広報活動・交流活動を通じて、一年間精力的に活動を行いました。以下に本年度の取り組みと成果をご報告いたします。

4月には、「仲間づくり」をテーマに例会を開催しました。この例会では、仲間や味方をつくるための効果的な手法について学びました。講師をお招きし、コミュニケーションの技術や信頼関係の構築方法を実践的に学ぶ機会を提供しました。参加者からは、自らの活動に必要な協力関係の築き方を深く理解できたとの声が寄せられました。

8月の例会では、インスタグラマーを講師に迎え、SNSを活用するための具体的な手法について学びました。この例会では、Instagramを中心に、投稿内容の計画立案、ターゲットへの効果的なリーチ方法、フォロワーとのエンゲージメント向上策など、実践的な内容を取り扱いました。参加者たちは、SNSを駆使して情報発信を効果的に行うためのスキルを向上させることができました。

11月には、格闘家を講師に迎えた異業種交流会を開催しました。この事業では、多様な分野の参加者が対話を通じて新しい視点やアイデアを共有する場となり、大きな盛り上がりを見せました。異なる分野の方々との交流を通じ、地域社会との連携をさらに深める機会となりました。

通年の広報活動としては、特にInstagramの運用に注力しました。定期的な投稿とともに、鎌倉青年会議所の活動をより多くの方に届けるための工夫を凝らしました。その結果、地域の皆様からの注目度が高まり、新たなつながりを生むきっかけとなりました。

会員拡大活動においては、SNSを通じた広報活動だけでなく、先輩諸氏や現役メンバーからの紹介が大きな役割を果たしました。信頼できるつながりを通じて、鎌倉青年会議所の活動に共感していただいた方々を新たな仲間として迎えることができました。この紹介による拡大は、組織の一体感をさらに高める結果にもつながりました。

これらの活動を通じ、拡大広報交流委員会は、年間を通じて11名の新たなメンバーを迎えるという成果を達成しました。この成功は、委員会メンバーや先輩諸氏、地域の皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。今後も、地域に根ざしながら持続可能な変革を追求する鎌倉青年会議所の発展に寄与してまいります。

【総務会員育成委員会】

- 担当副理事長名：和久裕治
- 委員長名：青木智博
- 副委員長名：千田理恵
- 委員名：小林久恭、伊藤達、石田渉、栗林幸広、細川愛香、天野由一、中島靖文、土屋陽祐、中島隼人
- 作成者名：青木智博

1) 事業報告

(I) 会議の開催及び青年会議所運営全般

- a. 内容：会議の開催及び青年会議所運営全般
- b. 時期：2024年1月～12月
- c. 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、先輩諸氏、関係諸団体
- d. 結果：第128回定時総会 出席21名 委任状5通
第129回臨時総会 出席24名 委任状7通
第130回臨時総会 出席20名 委任状10通

(II) 入会年数の浅い会員を育成する施策の運営全般

- a. 内容：会員を育成する施策の運営全般
- b. 時期：2024年1～12月
- c. 対象：入会2年目までの会員を対象に30名程度
- d. 結果：入会2年目までの会員20名
ルーキーズ事業参加者22名

(III) 交流会の開催

- a. 内容：新年式典・賀詞交歓会、次年度理事長を祝う会、年末式典・卒業生を送る会の開催
- b. 時期：2024年1月、7月、12月
- c. 対象：会員を対象に30名程度及び入会希望者、先輩諸氏、関係諸団体
- d. 結果：新年式典：会員25名、先輩諸氏30名、ゲスト5名、来賓33名、来訪JC61名
次年度理事長を祝う会：会員24名、先輩諸氏18名、ゲスト2名
年末式典卒業式・卒業生を送る会：会員27名、先輩諸氏18名

2) 委員会報告

本年度総務会員育成委員会では、鎌倉青年会議所が内外から信頼のある組織であるために、堅実な組織運営と会員一人一人が成長できるような活動し易い環境づくりを目指して、会議の開催や入会年数の浅い会員の育成に関する取り組み、および交流会の開催を行ってまいりました。

会議の開催及び青年会議所運営全般では、我々の活動の方向性を決める重要なタイミングで総会を開催しメンバー全員で審議を行えるよう環境を整えました。特に理事会では議案数に応じて会場を変更、あるいはハイブリッドで開催するなど、時間や場所の制約を最小限とした柔軟な会議運営を行いました。次に、入会年数の浅い会員を育成する施策の運営全般では、新入会員に対し経験豊富なメンバーをメンターとして割り当て、サポートする制度を導入し、入会直後に抱えやすい不安や疑問を解消することが出来たと考えます。特に本年度はブロック大会を主幹する年でもあったため、数年をかけて準備してきたブロック大会の意義について新入会員に伝えるのに役立ちました。入会2年未満の会員で事業を構築するルーキーズ事業においては、企画に先立つ制約も多い中、事業内容に工夫を凝らし、当日はルーキーズメンバー全員協力して運営され、今後にもつながり得る良い事業が実施されました。このことによりルーキーズのリーダーをはじめ、メンバーそれぞれにおいて良い経験となったと考えます。また交流会の開催では、新年式典、次年度理事長を祝う会、年末式典・卒業生を送る会を開催し、本年度の活動に向けて協力一致する機会とするため、また次年度に向けて更に結束するために、結束先輩諸氏や関係諸団体の皆さまをとともに交流を図ることができました。

結びとなりますが、総務会員育成委員会の一年間の活動を支えていただいた委員メンバーを始めとする現役メンバーと、一委員会をらせていただいた正副理事構成メンバーの皆様、ご支援をいただいた先輩諸氏に感謝申し上げます。

【ブロック大会実行委員会】

- 委員長名：長野トーマスマコト
- 作成者名：長野トーマスマコト

1) 事業報告

(I) まちの問題意識の共有と連携の重要性を神奈川に波及させる事業の主管

- 内容：公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会、第52回ブロック大会鎌倉大会の主管
- 時期：2024年9月
- 結果：会員34名・来訪JC774名・市民560名

(II) 県内各地会員会議所に鎌倉の魅力を発信し連携を強める事業の開催

- 内容：公益社団法人日本青年会議所 関東地区神奈川ブロック協議会、第52回ブロック大会鎌倉大会大懇親会の開催
- 時期：2024年9月
- 結果：会員34名・登録者数858名

2) 委員会報告

私は本年度、ブロック大会実行委員会の実行委員長として、Value Creation ～価値ある運動を～のテーマの下、鎌倉のまちで活動する様々な市民や団体を鎌倉青年会議所が架け橋となり、鎌倉のまちが一つとなることでまちに対してより大きなインパクトを残したいと考え、森山理事長の下、活動してまいりました。

ブロック大会実行委員会では、9月に第52回ブロック大会鎌倉大会の主管を務めさせていただき、その後ブロック大会の大懇親会を建長寺にて開催させていただきました。ブロック大会当日では公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会のブロック大会運営委員会と共に、鎌倉芸術館にて各種フォーラムを開催し、式典を執り行いました。その後、建長寺の境内にて県内21LOMのより強い連携を図るべく大懇親会を開催し、鎌倉のまちの魅力を感じていただく場を用意させていただきました。

最後になりますが、鎌倉青年会議所60周年という節目の年に、ブロック大会の実行委員長を務めさせていただいたことは、私にとって委員長という役を任せて下さった牧田理事長、鎌倉青年会議所60周年という節目の年に、ブロック大会の実行委員長という機会を提供してくださいました森山理事長、準備段階そして当日までご指導ご協力いただきました先輩諸氏の皆様、ずっと支えてくれた菅部会長、千田部会長、根本部会長、メンバーの皆様、そしてご協力いただきましたまちの皆様、心から感謝を申し上げ実行委員長報告とさせていただきます。1年間本当にありがとうございました。

【JC 理念共感推進会議】

- 議長名：菅倫明
- 作成者名：菅倫明

1) 事業報告

(I) JC の理念を理解する為の研修の開催

- (a) 内 容：青年会議所における理念の必要性や内容、意味についての理解を促進する事業
- (b) 時 期：2024 年 2 月
- (c) 対 象：会員を対象に 30 名程度及び入会希望者
- (d) 結果の公表：会員 22 名、参加ゲスト 5 名、伊勢原青年会議所 3 名

(II) JC 理念共感推進事業

- (a) 内 容：会員に当青年会議所の運動の方向性に明確な観点を確保する為の事業
- (b) 時 期：2024 年 1 月～12 月
- (c) 対 象：会員を対象に 30 名程度及び入会希望者
- (d) 結 果：正副理事長の事業説明の動画を会員に配信

(III) 10 月事業 2024 年第 50 回衆議院議員総選挙 神奈川第 4 区公開討論会の開催

- (a) 内 容：2024 年第 50 回衆議院議員総選挙 神奈川第 4 区公開討論会の開催
- (b) 時 期：2024 年 10 月
- (c) 対 象：会員を対象に 30 名程度及び入会希望者、市民
- (d) 結 果：動画視聴回数 1877 回、市民 42 名、メディア 6 名、
(一社) 横浜青年会議所 6 名、(一社) 逗子葉山青年会議所 3 名、会員 11 名

2) 会議体報告

本年度 JC 理念共感推進会議では、「当青年会議所がまちの未来を見据え、その時、その時代にあった正しい視点をもって、地域の発展に貢献し続ける為に、青年会議所としての理念と当会議所の理想をより組織内に浸透させるために活動いたしました。

2 月事業として、2023 年度公益社団法人日本青年会議所関東地神奈川ブロック協議会久本卓司先輩をお呼びし組織が理念に基づいた運動を展開できる基盤を構築することを目指し、青年会議所の理念の重要性や真意を再確認する為に「2 月事業 JC の理念とは」を開催いたしました。結果、参加した会員が JC の理念に共感し、その理念に基づいた運動を展開する為の組織における理念の必要性や内容、意味についての理解を促進できたと考えます。次に、事業前にすべての会員が青年会議所の理念を共有し、当会議所の理想を浸透させるために、運動の方向性に明確な観点を確保し、会員が一丸となって理念に共感し、目的を共有する環境を構築いたしました。最後に 10 月事業 2024 年第 50 回衆議院議員総選挙 神奈川第 4 区公開討論会の開催をいたしました。本事業によって、立候補予定者の考えを地域の皆様に伝えることで、一人ひとり自らが、国ないし、まちの事を考えるきっかけとなり、その波及が地域コミュニティの活性化の一助となったと考えます。また、立候補予定者の考えを知ること、メンバーの今後のまちづくり活動の一助となりました。近隣の青年会議所と共に事業を構築することは会員同士の繋がりや輪をさらに広げ、幅広い活動のできる第一歩となったと確信しています。

これらの事業を推進したことで、すべての会員が鎌倉青年会議所の理念をより深く理解し、目的を共有する機会を創造し、本年度当青年会議所に様々な課題への解決と持続可能な地域の形成を理想に掲げた運動の展開をもたらしたと考えます。これらの会議体の取り組みを通じて、今後も当青年会議所が地域社会において価値ある運動を継続し、挑戦し続けることを推進し、まちの未来を切り開く一翼を担い、明るい豊かな社会の実現の為の一助となることを確信しています。

【2024 年度出向者報告】

グローバルアライアンス構築委員会 小幹事 千田理恵

本年度、私は国際グループ グローバルアライアンス構築委員会に小幹事として出向させて頂きました。特に1月の京都会議開催時における各国の対応として、台湾のメインアテンドを担わせていただいたのは素晴らしい経験となりました。NPをはじめとするあたたかな台湾メンバーと1番近い距離で接し、帰国時には仲間のような連帯感も芽生えていました。国は違えどJCは繋がっている、という体感を得た貴重な経験となりました。この経験を、引き続き新たに入会したメンバーに伝えてまいります。本年出向の機会を与えて下さいました森山理事長をはじめ、支えてくださった鎌倉青年会議所のメンバーの皆様に感謝申し上げます。

規則審査会議委員 委員 根本紗央里

本年規則審査会議に出向させて頂きました。外部からの信頼を受け、支援を受けて成り立っている青年会議所は外部からの信頼に足る組織運営を行い、組織を継続していく必要があります。そのためには、法令を守り、自ら決めた規則を守ることは必要不可欠だということを学びました。また、JCの資金源の主な出所はメンバーからの会費です。さらに公益法人であれば寄付金や補助金など外部からのお金もあります。どんな事業を行うにしても、事業実施者の「自分のお金」ではなく、「みんなのお金」で行うのであり、だからこそ、「お金をできる限り適切に効率的に使う」ことが必要です。そのなかで、お金を使うにあたり、規則審査会議ではコンプライアンス等の「ルールを守りなさい」という「守り」の役割を行いました。効率の良いお金の使い方を学び、日本青年会議所開催のスケールメリットの高いJCの事業の内面を知り、自身のスキルを上げることができました。そして出向した学びは鎌倉青年会議所に落とし込み、対内外の信頼性を上げ、私が経験させて頂いたことをメンバーに共有し、私以外にも財政・規則に精通したメンバーが多く生まれることで、組織の信頼性を上げることを狙います。今年度は貴重な出向の機会を頂き誠にありがとうございました。

ブロック大会運営委員会 委員 藤井錬

本年度、私は神奈川ブロック協議会 ブロック大会運営委員会に委員として出向させて頂きました。鎌倉だけでなく、神奈川県全体で活躍する素晴らしい方々に出会い、成長できると感じたため出向を決意しました。1年を通して委員会活動に参加した実感として、委員長をはじめ積極的に活動されている沢山の方と触れ合い、向き合うことで、様々な発見がありました。委員会メンバー全員がブロック大会をより良くするために考え、意見交換し、自主的に行動するさまはまさに、皆が若きリーダーであり、人類への奉仕に尽力していることを実感しました。また、著名な方々も参加し、大勢の人が集まるブロック大会という大規模な事業に関わることができたことはとても貴重で、かけがえのない経験でした。本年出向の機会を与えて下さいました森山理事長をはじめ、私をブロック大会運営委員会に誘ってくださった田中副委員長、そして支えてくださった鎌倉青年会議所のメンバーの皆様に感謝申し上げます。

神奈川ブロック協議会事務局 委員 神代竜太郎

本年度、私は小林君とともに委員として出向させて頂きました。ブロック大会開催年であり、片根副会長以下多くのLOMのメンバーと一緒にという、心強くも責任ある年に出向させて頂いただけましたこと、森山理事長はじめ、LOMの皆さんに感謝申し上げます。事務局の委員では、職責こそ大きくはないものの、県下全理事長はじめとした役員の方々の皆さまや各LOMよりの出向者と顔を合わせる機会も多くなり、JC活動内外を問わない様々な場所に知り合いができたことはとても良い経験となったように思います。ブロックの議案に触れることもあり、LOMとの違いから学びもあったように思います。「JCの一番楽しいことは出向にこそある」と先輩から教わったこと、そのままLOMにお伝えするにはまだまだ経験が足りませんが、たしかにそうだ、と言える時がくるといいなと思います。ぜひ、積極的な出向を！

神奈川ブロック協議会事務局 委員 小林久恭

本年度、私は公益財団法人日本青年会議所かながわブロック協議会の事務局に出向させていただきました。これまでの経験を生かし、地域と連携した活動に貢献したいと思い、この役割をお引き受けしました。しかしながら、仕事や家庭の事情もあり、なかなか活動に十分参加することができませんでした。限られた参加の中でも、委員会のメンバーが連携しながら進めていく様子や、神奈川県内各地での活動を支える事務局の重要性を肌で感じることができました。また、出向を通じて他青年会議所のメンバーと交流を深め、地域を越えた繋がりを築くことができたことは、非常に貴重な経験となりました。私自身の課題として、時間管理や優先順位の見直しが必要であると強く感じました。この学びを生かし、今後の青年会議所活動や地域社会への貢献により一層努めていきたいと考えています。

かながわの未来共育委員会 委員 高久和則

本年度、私はかながわの未来共育委員会に委員として出向させて頂きました。初めて出向するにあたり分からないことだらけの中、出来る限り出席していくうちに他 LOM のメンバーとも交流ができて、普段経験のできない県庁で行った学生の討論会など刺激を受けることができました。先輩諸氏の皆様が創りあげてきた JC だからこそできる事業に触れ合える機会を与えてくれた森山理事長をはじめ誘ってくれたりアドバイスを与えてくれた鎌倉青年会議所メンバーに感謝申し上げます。

ネットワーク推進会議 委員 和久裕治

本年度、私は公益財団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会 ネットワーク推進会議 に委員として出向させて頂きました。ネットワーク推進会議は神園議長を中心に様々な事業を各地 LOM の為に開催されました。各地 LOM の問題を考えて作られた事業に係らせていただき地域特性によって様々な問題を抱えている中での活動をしている仲間たちがいることを再確認することで鎌倉の問題と照らし合わせ解決する糸口を見出す事が出来ました。本年出向の機会を与えて下さいました森山理事長をはじめ、支えてくださった鎌倉青年会議所のメンバーの皆様に感謝申し上げます。